

② 家庭系生ごみガス化実証実験

概要:

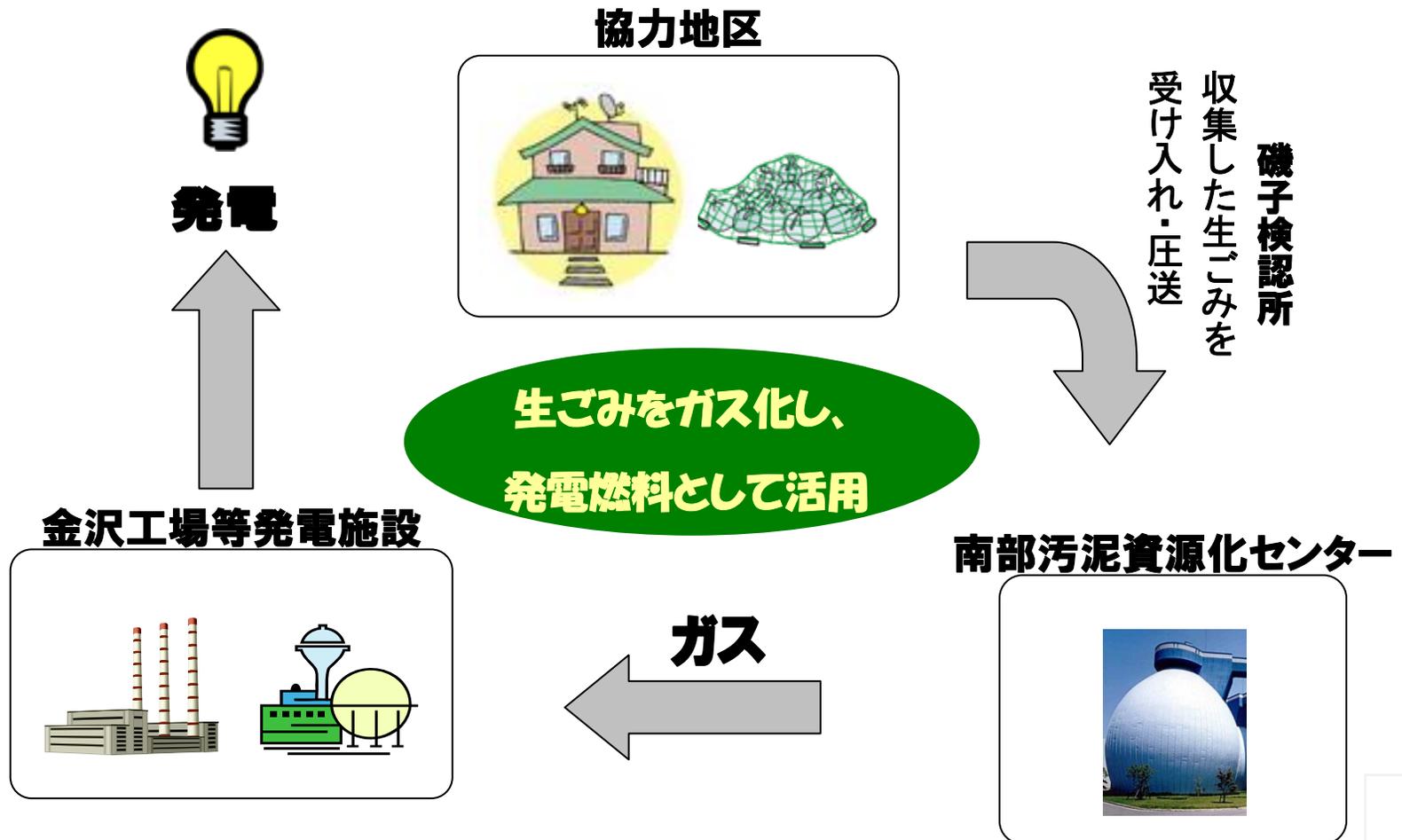
生ごみ(食べ残しや調理くずに限定)を分別回収して資源化(バイオマス化)し、そのガスを発電に利用、電力供給する実証実験。

平成21年12月より平成23年3月まで磯子区丸山第一町内会をモデル地区(900世帯の内450世帯が協力)として実施(総計82トン生ごみを回収、14,000m³のバイオガス化ができ、12,000KWh発電)。

検証結果:

- ・バイオガス化しての発電量は12,000KWh(3世帯の年間消費電力)と少ないが、生ごみの減量効果は大。
- ・全市展開の課題としては、バイオガス化施設が限られていること、生ごみ専用収集袋及び収集した生ごみの異物除去などに掛かる費用増がある。

～生ごみの資源化(ガス化)の実証実験～



(3) 横浜市の今後の対応など

横浜市は、生ごみ減量化の一環として、「生ごみマイスター(生ごみ堆肥化)事業」並びに「家庭系生ごみガス化事業」をどのように進めるかを、実証実験結果の検証を踏まえ、「家庭系生ごみガス化事業」を今年度中に再開する方向で調整を進めている。